

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10590004				
授業名	生命科学と生命倫理 C	形態	講義	単位	2
担当教員	魚谷 雅広				
開講学期	2024年度 前学期	曜日・時限	月曜2限		
授業目的	生命倫理の諸問題を読み解く基本知識や基本原理を身につけ、これらの問題について自ら考える視点を養う。				
授業内容	現代の生命科学・医療をめぐる倫理的諸問題を具体的な事例から考察する。そしてその考察を通じて、生命の尊厳と生命尊重の精神を再確認するとともに、生命に関わる倫理原則について考察する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命倫理学が扱う問題領域について説明できる。</li> <li>・生命倫理学において重視される基本原理を説明できる。</li> <li>・生命科学・医療をめぐる倫理的諸問題に対し、事例を挙げながら具体的にその問題点を説明することができ、また自己の見解を展開することができる。</li> </ul>				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	基本的には講義形式の授業を行うが、授業内容に関する意見交換や簡単なディスカッションを行うなど、アクティブラーニングの手法を取り入れる。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	ISBN：9784316804316、「テーマで読み解く生命倫理」、小泉博明：井上兼生，教育出版，2016年				
評価方法	事前事後学習レポート、授業内試験により総合的に評価する。				
評価基準	事前事後学習レポート60点、授業内試験40点（必須）				
試験・レポート等のフィードバック	提出を求めたレポートについては、原則次の回に講評・解説を行う。 また、14回目の授業内試験については15回目にその解説をするとともに授業のまとめを行う。				
注意事項及び履修条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必ず授業内試験を受験すること。事前事後学習レポートの提出だけでは成績評価の対象としない。</li> <li>・提出するレポートについては指示する形式や日時を守って提出すること。形式に従っていないレポートについては評価対象としないので注意すること。</li> </ul>				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					
第1回					
事前学習	この授業のシラバスを熟読してくる。また、「生命倫理」という言葉を聞いてイメージする事柄について、また、特に学びたい事柄についてノートに自分の考えをまとめておくこと。				
授業内容	オリエンテーション/生命倫理学とは何を扱う学問か 講義の目的、内容、到達目標を確認する。事前学習・事後学習の説明、講義の受け方、評価の仕方等、一連のオリエンテーションを行う。その後、米でbioethicsが成立してきた背景について理解するとともに、bioethicsが主に生命科学と医療の倫理的問題を対象とする学問へ形成されてきたことを学ぶ。				
事後学習	テキストや配布資料を読み直し、重要な箇所には傍線を付しておくこと。また、不明な点は調べるなどしてノートを補足・整理しておくこと。その上で授業を通じて新たに学んだこと・気づいたこと・感じたことなどを整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。				
参考文献	村上喜良『基礎から学ぶ生命倫理学』勁草書房,2008 香川千晶『生命倫理の成立 人体実験・臓器移植・治療停止』勁草書房,2000				
第2回					
事前学習	テキストの「ヒポクラテスの誓い」、「16 インフォームド・コンセント」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。また、ノートに要点を整理しまとめること。				
授業内容	医療倫理の展開 『ヒポクラテスの誓い』の特徴を把握し、ピーチャムとチルドレスの『生命医学倫理』で展開される四原理との異同について理解する。特にパターナリズムからインフォームド・コンセントへの動きについて理解する。				
事後学習	配布資料の事例について自分の考えをまとめ、授業内の指示に従って提出すること。				
参考文献	トム.L.ピーチャム・ジェイムス.F.チルドレス『生命医学倫理(第5版)』麗澤大学出版会,2009 R.フェイドン/T.ピーチャム『インフォームド・コンセント』みすず書房,1994 山崎章郎『病院で死ぬということ』文春文庫,1996				
第3回					
事前学習	ALSという病気について調べ、ノートにまとめておくこと。				
授業内容	告知・自己決定の難しさ 前回の事後学習について検討する。 告知の難しさやICのあり方、また「自己決定」の難しさについて理解を深める。				
事後学習	授業を通じて新たに学んだこと・気づいたこと・感じたことなどを整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。				
参考文献	小松美彦『自己決定権は幻想である』洋泉社,2004				
第4回					
事前学習	「18 医療倫理の四原則」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。また、ノートに要点を整理しまとめること。				
授業内容	倫理理論と生命倫理学の四原則 前回の視聴教材を手がかりに、倫理理論と生命倫理学の四原則について理解する。				
事後学習	授業を通じて新たに学んだこと・気づいたこと・感じたことなどを整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。				
参考文献	香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009				
第5回					
事前学習	テキスト「14 安楽死と尊厳死」、「15 終末期医療」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。また、ノートに要点を整理しまとめること。				
授業内容	安楽死と尊厳死(1) 安楽死をめぐるいくつかの事件を参照しながら、慈悲殺・安楽死・尊厳死などの概念理解を目指す。				

	また安楽死をめぐる事件の背景には、医療従事者と患者の立場の違いや生命の尊厳(SOL)と生命の質(QOL)という理念の対立があることを理解する。
事後学習	授業で扱った安楽死事件をどのように分類できるか整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。
参考文献	香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009
第6回	
事前学習	尊厳死の法制化に対する賛成派・反対派それぞれの見解について調べ、ノートに整理しておくこと。
授業内容	安楽死と尊厳死(2) 現在では、積極的安楽死よりも終末期医療における延命治療の中止等が問題となっている現状について理解する。さらに、尊厳死の法制化をめぐる問題について、諸外国と比較しながら考察する。
事後学習	これまでの授業内容を踏まえ、「よい死」を迎えるために必要なことは何か、自らの考えをレポートにまとめ、授業内の指示に従って提出すること。
参考文献	宮下洋一『安楽死を遂げるまで』小学館,2017
第7回	
事前学習	テキスト「11 脳死と臓器移植」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。また、ノートに要点を整理しまとめること。
授業内容	脳死・臓器移植(1) 「人の死」と「脳死」の違いについて、医学的・生物学的観点を中心に理解する。また、心停止後の移植、脳死下の移植、生体移植などの相違を押さえつつ日本における臓器移植の現状について概観する。
事後学習	日本臓器移植ネットワークのHPを訪問し、「臓器移植解説集」から脳死および脳死判定について復習すること。その上で、授業を通じて新たに学んだこと・気づいたこと・感じたことなどを整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。
参考文献	小松美彦『脳死・臓器移植の本当の話』PHP新書,2004 柳田邦男『犠牲—わが息子・脳死の11日—』文春文庫,1999 日本臓器移植ネットワークHP <a href="http://www.jotnw.or.jp/index.html">http://www.jotnw.or.jp/index.html</a>
第8回	
事前学習	日本臓器移植ネットワークのHPを訪問し、「臓器移植解説集」から「臓器提供について」を読み、ノートに要点を整理しておくこと。
授業内容	脳死・臓器移植(2) 現行法制下における脳死・臓器移植の流れを理解するとともに、脳死・臓器移植の是非をめぐって指摘される問題点について把握する。また、今後の脳死・臓器移植のあり方について考察する。
事後学習	自分はどのような臓器提供を行うか(または行わないか)について、その理由とともに自分の考えをまとめ、授業内の指示に従って提出すること。
参考文献	小松美彦『脳死・臓器移植の本当の話』PHP新書,2004 柳田邦男『犠牲—わが息子・脳死の11日—』文春文庫,1999 日本臓器移植ネットワークHP <a href="http://www.jotnw.or.jp/index.html">http://www.jotnw.or.jp/index.html</a>
第9回	
事前学習	配布資料を読み、受精から出産に至るまでの流れを時系列でノートに整理しておくこと。
授業内容	いのちの誕生 受精から誕生までの道のり、また「親」になるまでの道のりについて学ぶことで、生命の神秘や尊厳についての理解を深める。
事後学習	授業を通じて新たに学んだこと・気づいたこと・感じたことなどを整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。
参考文献	NHKスペシャル 驚異の小宇宙 人体 Vol.1「生命誕生」[DVD] うまれる：いのちの授業：学校教材用DVD 小さな生命の詩(いのちのうた)/LIFE BEFORE LIFE スペシャル・エディション [DVD]
第10回	
事前学習	昨今の人工妊娠中絶件数について調べたうえで、人工妊娠中絶について自分がどのように考えるかノートにまとめておくこと。
授業内容	人工妊娠中絶および不妊をめぐる問題 わが国の人工妊娠中絶をめぐる現状や問題点について学ぶ。さらに、死産や不妊などについて学ぶことで、あらためて生命が誕生することについて考える。
事後学習	授業を通じて新たに学んだこと・気づいたこと・感じたことなどを整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。
参考文献	うまれる：いのちの授業：学校教材用DVD 『バイオエシックスの基礎～欧米の「生命倫理」論』東海大学出版会,1988
第11回	
事前学習	テキスト「5 生殖補助技術」、「6 出生前診断・着床前診断」、「12 人体の資源化・商品化」、「13 再生医療」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。また、ノートに要点を整理しまとめること。
授業内容	生殖技術の展開とその問題 人工授精(AIH,AID)、体外受精・胚移植、代理出産、出生前診断など、主要な生殖技術の現状について理解し、具体的な事例の考察を通じて、これらの技術が生み出す倫理的問題について考察する。
事後学習	授業を通じて新たに学んだこと・気づいたこと・感じたことなどを整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。
参考文献	香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009
第12回	
事前学習	テキスト「1 遺伝子・DNA・ゲノム」、「2 バイオテクノロジー」、「3 ヒトゲノム」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。また、ノートに要点を整理しまとめること。
授業内容	遺伝子技術と優生学的問題(1) 遺伝に関する基本的事項について理解する。また、遺伝子操作の技術やその倫理的問題について理解する。
事後学習	授業を通じて新たに学んだこと・気づいたこと・感じたことなどを整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。

参考文献	香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009 米本昌平他『優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか』講談社,2000
第13回	
事前学習	テキスト「7 優生思想」を読み、傍線を引くなどして不明な点・疑問点を明らかにしておくこと。 また、ノートに要点を整理しまとめること。ダーウィンの進化論、および社会ダーウィニズムについては特に調べ、ノートにまとめておくこと。
授業内容	遺伝子技術と優生学的問題(2) 優生学や社会ダーウィニズムが生みだした悲劇について知る。更に「内なる優生思想」という考え方について理解する。
事後学習	授業を通じて新たに学んだこと・気づいたこと・感じたことなどを整理しまとめ、授業内の指示に従って提出すること。
参考文献	ETV特集「人間改良を目指した男たち」 香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー掲書,2009 米本昌平他『優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか』講談社,2000
第14回	
事前学習	講義の内容をテーマごとに振り返り、各々の不明な点・疑問点などをノートに整理してまとめること。授業内試験の準備を行うこと。
授業内容	講義内容全体の確認および授業内試験 なお、授業内試験の欠席者については、16回目等、後日試験を行う。
事後学習	不明な点を明らかにするなど、授業内試験についての振り返りをノートにまとめること。
参考文献	
第15回	
事前学習	授業全体を通じて学んだこと・身についたこと・関心や疑問に思うことなど、授業の振り返りを自分の言葉でノートにまとめること。
授業内容	試験の解説および授業のまとめ 授業内試験の解説ならびに授業では扱いきれなかった倫理的諸問題をめぐるテーマについて補足し、授業のまとめを行う。
事後学習	授業目的や到達目標に照らして自己の学修を振り返り、向上した点や残された課題について文章にまとめ、授業内の指示に従って提出すること。
参考文献	
※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。	
ディプロマポリシー	<DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。 <DP1-(1)> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。 <DP1-(2)> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。 <DP1-(3)> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。 <DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。